



終活カウンセラー

I.F.P.E.代表
アトリエベルファム主宰

小路博子



OMA

女性経営者シリーズ

最近「終活」という言葉がよく聞かれるようになった。「終活」という言葉はいつできたのか？2009年に週刊朝日を作った言葉だと言われている。生前に遺影写真を撮影したり、お葬式の生前予約をしたりと、自分らしさ自分のスタイルを追求される方が増えてきているように感じる。そういう時代だからこそ、ますます「終活」ということが、TVや雑誌に取り上げられるようになってきているのだと思う。それには今の日本の社会背景があると思う。現在の日本は4人に1人が65歳以上という超高齢社会である。2060年には2.5人に1人が65歳以上、4人に1人が75歳以上になると予想されている。2011年に設立された「終活カウンセラー協会」によると、「終活」とは“人生の終焉を考えることを通じて自分を見つめ、今をよりよく自分らしく生きる活動”のことであるという。終活は百人百様、自分一人だと何からやってよいのか、そして自分にとっての終活とは何か？ということが見出しにくいことがある。「終活カウンセラー」はそんな方々にしっかり寄り添い、じっくりゆっくりお話を聴かせていただき、共感し、一緒に自分らしい終活を考えサポートする役割がある。そのためのスキルとしても、終焉の準備がスムーズになるよう、相続・遺言・葬儀・お墓・供養・保険・年金・介護の基本的に知識を持っていて、専門家や専門業者に繋ぐ架け橋の役目がある「シニアのお困り事案内人」といえる。

私は要介護5の父を施設で15年介護していただき、要介護3の母を自宅で5年半介護した。介護については、かなり詳しくなったつもりである。2007年に父を、2011年に母を亡くした。その時は

葬儀について色々と考えさせられた。母を亡くした後、プリザーブドフラワーの仕事を長年してきたことから、“フューネラルフラワー（仏事に使用する花の総称）デザイナー”の資格を取得し、プリザーブドフラワーとアーティフィシャルフラワーで作成する仏花をカルチャーや自宅でレッスン、作成してきた。生花の仏花がすぐに枯れてしまうことにお困りだった多くの方々に大変喜んでいただけた。ご遺族の方の心のケアにもなれたのではないかと思っている。そして知識をもっと広げるために「終活カウンセラー」の資格を取得し、勉強会に出席したり、エンディングノートセミナー講師の資格も取得した。今年は西宮市からのご依頼を受け、2月、3月に4週連続で、行政書士の先生とご一緒に終活セミナーを行うことになっている。超高齢社会の現在、色々な問題でお困りの方々のお話をじっくりと心で聴かせていただき、アドバイスさせていただける「終活カウンセラー」でありたいと願っている。

プロフィール

1995～98年 パリ7区「エコールフランセーズ・ド・デコレーション・フローラル」で学ぶ

2006年 I.F.P.E.（パリ・ヨーロッパスタイル花・芸術学院）設立

アトリエベルファム主宰

終活カウンセラー

フューネラルフラワー協会仏華デザイナー

デコパージュ美術工芸協会認定講師

日本バイオフラワー協会認定講師

<http://ifpe.jp>